

ドーハの砂嵐

ドーハ日本人学校

佐伯 征彦

平成 27 年 8 月 19 日 (水)

みなさんこんにちは。今年度文部科学省からカタールにあるドーハ日本人学校（JSD）へ派遣された、北栄町立北条小学校所属の佐伯征彦（さえきまさひこ）といたします。よろしく申し上げます。この「ドーハの砂嵐」を通して、県民の皆様にカタール（ドーハ）の魅力をたくさん発信していきたいと思っております。



カタールは砂漠地帯ということもあり、砂が街中に蔓延しています。砂とは切っても切れない関係です。また、ときどき砂嵐がやってきます。そのときは家の中にまで砂が入ってくるそうです。私自身、初めての海外生活ということで、あっという間に4ヶ月が過ぎ、嵐のように過ぎ去っていく日々でした。きっとこれからもあっという間に過ぎていく気がします。ドーハの砂嵐に負けないよう、これからも仕事に励み、異文化理解に励もうと思ってこのタイトルにしました。

カタールの基本データ

さて、ドーハに派遣されて4ヶ月が経ちました。まず今回は、今住んでいるカタールという国そして、ドーハ日本人学校について簡単に紹介をしたいと思います。

国名：カタール国 首都：ドーハ

面積：11,427 km² (秋田県よりやや狭い)

場所：アラビア半島東部

人口：約226万人 (2014年11月現在)

カタール開発計画統計省

時差：日本より6時間遅れ

言語：アラビア語が公用語であるが
英語も広く通用している。

休日：金曜日・土曜日 (祝日はほぼなし)

平均気温：5月～10月 約35度

11月～4月 約20度

※最高気温50度のときもある

通貨：カタールリヤル (物価は日本より少し高い)

1カタールリヤル=約34円 (2015年8月現在)

宗教：イスラム教 (豚肉× アルコール× など規制あり)



カタールの様子

カタールと聞いてどんなイメージを持たれますか？「どこ？」、「中東だから危ない？」、「ドーハの悲劇」など、きっとあまりいいイメージができなかったり、想像できなかったりする方が多いと思います。私も全く分からないままやってきました。

カタールはまさに発展途上国という言葉がぴったりの国でした。戦後、急速に発展していった日本を彷彿とさせる気がします。カタールは今、町全体が建設ラッシュで、豪華で高いビルが建ち並び、カタールが成長期にある国であることを感じさせます。



ドーハ市内は整備されています



工事中の建物がたくさん

また、ドーハ市内から少し離れる（車で30分程度）と、まだまだ開発の手が伸びていない砂漠地帯が広がっています。鳥取砂丘とは異なり、こちらでは砂漠を車で走ること（オフロード）もできます。



走ったところが道になるオフロード



夕日は鳥取もカタールもきれいです

日本からすると治安の心配をする人も多いと思いますが、カタールの治安はとても良いと思います。中東といえば、女性は一人で歩いては危ないとか、テロの危険性があるというイメージかもしれませんが、実際に生活してみると、まったくそんなことはありませんでした。ただ、カタールに住む人は運転が荒いという印象を受けました。クラクションを鳴らしたり、ウィンカーを出さずに車線変更をしたり、スピード超過をしたりすることがよくあります。そのためか事故も多く、毎日事故を起こしている現場を見かけます。危険な場所には毎日警察がきて巡視をしています。

日本人のマナーのよさを改めて感じています。



日本とは異なる標識を見つけるのもおもしろいです

ドーハ日本人学校の様子

ドーハ日本人学校は全校児童生徒で40人の小さな学校です。児童生徒と書いたのは、小学1年生から中学3年生までいるからです。そこで、私は小学校2年生（10名）の担任をしています。ただ、それだけでなく、1年～6年までの体育と中学校1年生の数学も担当しています。



学校の玄関です



全校集会



児童生徒の登下校はバス



授業の様子です



校庭は学校になく、公園で外運動（体育）をしています。



歯科検診などの検査もちゃんとやります。

ドーハ日本人学校の伝統芸 和太鼓！！

ドーハ日本人学校では、日本の文化を伝えていくために、和太鼓に取り組んでいます。みんなの気持ちがそろった演奏は感動の一言です。カタールのホテルなどで行われるイベントにも参加するなど、和の文化を広める活動につながっています。



40度を超えるカタールでも日本の子どもたちは元気に生活しています。これからもこちらの様子をお伝えしていきます。次号をお楽しみに☆